【福島大学むらの大学アーカイブ 09】【南相馬 Chapter 4】

無我夢中から新たな一歩へ

未来へ向けた相馬牧場の挑戦

株式会社相馬牧場代表　相馬秀一さん

インタビュー日時：2023 年 9 月 26 日
インタビュー場所：株式会社相馬牧場
聞き手：千葉晃久、八木古都音、齋藤雄斗、我妻由崇、前川直哉

プロフィール

1975(昭和 50)年 11 月 22 日生まれ（インタビュー当時 47 歳）。金房小、小高中、相馬農業高校、岩手短期大学を卒業後、西郷村で酪農ヘルパーを 1 年行い、矢吹の農業法人の酪農家に勤めた後、小高に戻り家業の 4 代目の酪農を継ぐ。震災後は、飼料作物の栽培・サイレージの販売、羊（肥育用：15 頭、繁殖用 64 頭）、馬（サラブレット）の飼育を行っている。現在の家族構成は、相馬秀一さんのご両親、妻、子供（長男：19 歳、長女：中学校 2 年生、次女：小学 6 年生）。

１．牛との生活と震災の発生

★震災前の暮らし

―おいくつの年に小高に戻って来られてたんですか？
相馬：24 歳で戻って、家の仕事やったのかな。当時、乳牛で 24～25 頭いたかな。あと、育成も 20 頭ぐらいいた。

―牧場は、ずっとお父さまがやっておられたのですか。
相馬：そうです。

―相馬さんで 4 代目ということですが、初代から牛を飼われていたんですか？
相馬：最初は豚だったらしいです。豚飼って、牛飼ってって言ってましたね。

―主に乳牛ですか。
相馬：乳牛ですね。戦後、食糧難で動物性のタンパク質を摂取するのに、どこでも飼ってたらしいですもんね。昔は、1 頭飼えば、子ども大学にやれるっつってね。
　今、100 頭飼っても無理なんじゃねえかな。大学、お金かかるからな。

―そうですね。
相馬：その後、俺 25 の年(2000 年頃)に堆肥場造って、それから牛舎造って、牛を北海道から 60 頭導入して、9 月に完成して導入したのかな。その当時、牛乳で一番搾って、日量 1 トンぐらいかな。

―1 トン！！
相馬：1 トンぐらいは搾ってた気がしたな。そんぐらいだったけど。いろいろあるんだわ、こっからが。いろいろあんの。

―差し支えない範囲で聞かせてください。
相馬：9 月に導入して、また 12 月に導入して、そん時、牛 RS ウイルスっていうウイルスと、あと、牛にコロナウイルスあるんだけど、それの混合感染して、うちの牛、1 週間で十何頭死んだんだよね。最初は、1 トン 600（キログラム）ぐらいは乳搾れたんだよ、でも、そっから 800 キロぐらいまで落ちて、ばたばた死んじゃったんで。北海道の牛は免疫あるから死なないんだよね。
　これはまずいなと、ちょっと気合を入れなきゃなんねえなっつって頑張って、震災までずっと増やしてったり何だりして、乳量も伸ばしてって、震災当時で経産牛で 110 頭になったのかな。あと、育成牛で 70 頭いた。だいたい全部で 182 頭ぐらいいたな。実は震災の日はマックス乳量だったんだよね。（2011 年）3 月 11 日。3 トンくらいは搾れたのかな。お祝いだなんて言っててね。

—3 トン！
相馬:牛もそろってきた時点で､4 月産みの初妊牛って初めて子ども産むやつが 14～15 頭いたんだよね。ほんで、それまでに結構、生まれるから牛減らしてたのよ。もう古い牛は淘汰（とうた）しようっちゅうことで、じゃんじゃん減らしてて、そんな状態だったな。これからだという時だったよね。

—そうですよね。200 頭近くになるってことですね。
相馬：そうだね。その時ももう 6 年ぐらい目だから、牛のお金って、それぐらいで償還しちゃうんだよね。6 年で、減価償却の時までに償還するように貸付受けるんだけど、借金はそれで終わる年だったんだな。返済が終わればもう牛減らすかなと思ったんだよ、もうぎゅうぎゅうに入ってた。120～130%入ってたんだよ。で、ちょっと減らそうかなと思って。牛代っちゅうても結構なお金だからね。

—そうですよね。
相馬：だいたい 6 年 7 年で借金（を返して）ね。こんな話ししていいのかな。一番最初、25 の年で俺、1 億 2,000 万円ぐらい借金したの。ほんで、6 年 7 年目で半分返したんだよ。

—ここの牛舎を建てるためにですか？
相馬：そうです。

—すごいですね。
相馬：うん。あとは余裕だなと思って。牛減らそうかなと思った。

—会社に貸す感じになるんですか。
相馬：いや、会社じゃないです、個人ですね。震災の次の年に会社にしようかなと思って、手続きは進めてたんだけど。

—すごいですね。でも、よく貸してくれましたね。
相馬：こんな話はあれだけど、農林金融公庫にお金は借りるんだけど、農林金融公庫って、土田んぼ、畑とかの土地が抵当に入れれば、普通貸してくれるんだけど、額でけえから、家も抵当に入れてくれって。家、抵当に入れて、幾らになんだよって言ったら、誠意ですって言われて。誠意。

—なるほど。
相馬：そのぐれえしてやったんだけど。宅地とか全部抵当に入れたね。

★震災当時の状況と不安

—向こうもすごいことしますね。
相馬：そこまでしてやらなきゃ、事業なんかやれねえよ。
　震災ん時は、一番思ったのはやっぱりその借金どうすっかなっていうのが一番思ったね。賠償金とかそ

ういうのはもう全然、その時点では、そういう話はなかったんで。

震災に遭って、（2011 年 3 月）16 日の朝まで乳搾りしたんだよね。避難して原町にいたんだけど、（小高に）通って乳搾りして、牛乳は全部捨てて。そん時、一番思ったのが、これエサねえよ、どうすんべえっちゅう感じかね。乾草も結構めいっぱい入ってたんで、輸入乾草、それを食べさせてはいたんだけど、16 日まで。その後はほんと（小高に）入れねえ状態っていうか、原発も危ないしね。こりゃ駄目だぞっていう状態になって、3 日にいっぺん通うようになって、エサやってか。何日か過ぎて、またエサやりに来てって、その繰り返しが 2 カ月くらい。その間に結構死んでくやつとかはいて、ほんで、最後、7 月の何日だったけな、何日か頃、自分が持ってるエサ全部やって、次 2 週間ぐらい来なかったかな。その後もだいぶ死んでて。こりゃどうしようもねえなっちゅうことで諦めたというのがあれだね、やっぱりね。

—そうだったんですね…。ちなみに震災が起きた頃って、従業員さんは雇っておられましたか。

相馬：いない。家族労働で。

—すごいですね。まだその頃お子さん小さいですよね。

相馬：そうだね、ちっさい。

—それでも朝から晩までずっと働き詰めですか？

相馬：うん、そうだね。朝 5 時半ぐらいから夜は 10 時、10 時半ぐらいまでやったかな。長靴脱いだことなかったけどね。

—休みもないですか。

相馬：休みないね、ヘルパー（酪農ヘルパー）とか利用しなかったからね。借金返すだけで、やっぱ精一杯だっちゅうかね。やっぱりそこは一生懸命やらんと。

—すごいですね。

震災当時のことについて詳しくお聞きします。地震が起きた 3 月 11 日の午後 2 時 46 分、揺れた時はここにいらしたんですか？

相馬：あの時は、2 時 46 分にめし食ってたんだよね、昼めし。その頃にぐらぐらって来て、子どもたちとみんなで外に出て、そしたら、ばあちゃん家ん中に忘れてね。ほんで、助けに行って。ひどいな、あの揺れは。ひどい。ぐらぐら揺れて、あれ、牛鳴いたんだな、すげえ鳴いたんだよ。

—揺れてる中で。

相馬：揺れて。揺れた後、鳴いて。エサ寄せしたら、やっぱり落ち着いて。テレビも映ったし、電気も来てるし、水道もあるし、何のあれもねかった、なかったんだな。不自由することはまずないんだな。

—ライフラインは大丈夫だったんですね。

相馬：全然大丈夫。テレビ見たら、津波の映像とか流れてくんだよね。ああ、すげえことになってんなと。でも、これあしたの牛乳どうすんだと。あしたの牛乳、集乳に来てくれんのかなって話で、そしたら、組

合の人が直接来て、やっぱり CS（クーラーステーション）って、集乳所のパイプラインがもう全部駄目で、集乳できない状態になって、あしたの朝はやっぱり廃棄してくださいっていうことになって。そこまでは全然普通ですよね。

—電話はつながったんですか。

相馬：電話つながったね。固定電話はつながったんだよね。携帯はつながんないね。

次の日、消防団で災害復旧とか、行方不明の人いるから集合してくださいって言われて行ったんだよね。そしたら、すげんだね。みんな海なのね。そん時初めて知って。人とかも浮いてるし、そういうの救助したり、みんな死んでるけどね。その後だよな、原発が危ねえっていう話になって、防災ヘリの無線か何かが入ったんかな。そしたら、12 日だっけか、第 1 原発が爆発しましたとか何とかって。

—12 日ですね（3 月 12 日の 15:36 に 1 号機水素爆発）。

相馬：そうだよね、12 日も救助作業に行ったんだよ。防災ヘリが来て、爆発しましたっていうのを聞いて、その後、誤報だって流れたの。やっぱああいうのって、政府の発表がない限り流しちゃ駄目なんだな。ほんとかよっていう話で、周りで爆発なんかしたらやべえぞっていう話になって。そん時も津波注意報とか来てたし、うちらはもうそんな状況で。海のほうに島みてえのあって、そこに何人かいて、そこにボートでおにぎりを届けてくれって話あったんだけど。これは届けたら、俺が津波で死ぬなと。それも取りやめて、もう解散して帰って来た。その後だね、爆発したのは。ほんとだったんだっちゅう話もあったな。

原発爆発してからは、この辺は消防の作業もなかったような気するな。もうみんな避難だよね、半分。そんで避難したのはいいんだけど、ガソリンなくて、16 日までは軽トラックとかいろんなのからかき集めて入れて。だからその時は、道にガス欠の車がたくさんあったね、やっぱり。その後、16 日まで牛やってたんだけど、15 日に子牛のミルク足りなくなって、ミルク取りに酪農組合の浜支所にミルク取り行ったら、ぐじゃぐじゃだわね。ミルクだけ持って来て、帰りに自動販売機でジュース買おうかなと思ったら、もう全部バールでこじ開けられてて。そんな状態だったね、やっぱね。

—誰かが開けて、お金を持って行ったんでしょうかね。

相馬：避難になって、16 日まで通い詰めていて、そっから福島の渡利っちゅうとこ行ったんだけど、飯館とかにも結構いっぱい人いたし。

あん時思ったのは、セブンイレブン、電気来てねえと、nanaco 使えねんだな。現金は持っといたほうがいいなと思った。電子マネー、一切駄目だからね。現金だったら、どうにか売ってくれたんだよね。でも、セブンイレブンの品物って結構家庭用品、洗剤だ何だっていっぱいあると思うんだけど、(その時は)何にもなかったね。こんなの何すんのっていうものでも、みんな買ってくんだよね、物がない状況だと。そういうのがあったな。

—もうとにかくある物は全部欲しいと考えていたんでしょうね。

相馬：ある物は全部欲しいんだね。何かの役に立つしとかってあるんだろうね。

その後、福島に 1 週間ぐらいいたかな。親戚のうちに。その後、会津の親戚のほうに行って、会津で俺は 1 年 8 か月いて、次、相馬市に帰って来て。今も相馬市なんだけどね。両親は喜多方にいて、今、相馬

に家建てたので、だんだん帰って来る算段してますね。

２．震災時の避難と小高の状況

★避難と情報の錯綜

—時系列の整理ですが、まず 3 月 11 日に地震があって、消防団は 12 日に行かれたと。その時はまだ小高の自宅から行かれたのですか?
相馬：そうです。

—その後、いったん原町に避難したんですね。
相馬：避難したの、おそらく 13 日だと思う。

—避難所はどこへ行かれたんですか？
相馬：最初は石神中学校だったような気がしたな。石神中学校に 1 晩いて、とてもじゃねえけど、いれねえよね。一番困ったのはトイレじゃねえかな。そんなキャパあるわけないよね。それで親戚のうちにお世話になったのかな。

—原町の親戚ですか?
相馬：原町。お世話になってて、そしたら原発が爆発してくんだよね。じゃんじゃん爆発してって、あん時、防災無線か何かで、エアコンかけるなって言ったんだよね。外の空気を中に入れるな。これはただごとじゃねえぞと。それはおかしくねえかって。政府の発表は、あん時はすぐ体に害になるものではない（と言ってた)。あれ、なんか、これちょっとおかしいなと。避難をしなきゃやべえなって避難したのかな。あの当時も、東京電力に勤めてる人とか結構いたんだよね。この辺でもかなりいたから。その人からメールか何かで、渡り渡って来るんだよ。電波通じねえから、（電波が入る場所に行くと）一気に 50 件ぐらい（メールが）ばあって入るんだね、携帯に。そんなん全部読みようないわね。携帯がもう全然機能しなかったのは覚えてるな。

—その東電の人からの情報ってどこからのものですか？
相馬：作業員だろうね、おそらくね。

—どんな内容だったか覚えておられますか？
相馬：確か、100 キロ以上逃げろって言った気がしたな。

—そういうの聞いたら、原町で大丈夫ってなかなか思いづらいですよね。
相馬：でも、100 キロ以上逃げろっては来んだけど、避難先には人いるんだよね。何か変な感じだよね。100 キロ逃げろって言われたんだけど、80 キロ地点、50 キロ地点に人いるんだよね、普通に生活して。

そういう人たちには言ってないんだよね。そういうのはあったな。あん時は、誰を信じてもいいかなんていうのは、よく分からねえ状態だよね。

—そうですね。でも、その時奥さんは妊娠中でしたよね。
相馬：そうそう。

—何カ月ぐらいでした？
相馬：あれ、9 月に生まれたんだから、何カ月だ？

—大きくなり始めてるところですよね。そして 1 歳の子と、幼稚園の子と、ご両親と避難をされたんですね。
相馬：そうそう。みんなで行って。

—それは、子どもも小さいですし大変ですね。
相馬：大変ですね。同じ境遇の人がたくさんいるからね、あん時は。

—では、3 月 16 日の朝までは、作業には相馬さん 1 人で来ていた感じですか？
相馬：いや、うちの父ちゃんと母ちゃんも来たんじゃないかな。

—その後、渡利の親戚のお家に行ったんですね。
相馬：そうですね。

—そこから 3 日にいっぺんは小高に通われていたんですか？
相馬：そうですね。動物飼ってたんで、その許可証あったんで入ったり。マスクして行けよとか、何とかあったよ。でも、コロナん時よりマスクしてる人は少ねかったような気すっけどな。

—コロナの時はみんなしていましたね。
相馬：放射能ん時はそうはいなかったな。マスクはみんなしてたけどね、コロナほどじゃなかったな。

★小高の町の状況

—原発がどんどん危なくなっている中で、福島から小高に来るのって怖くなかったですか？
相馬：どうなんだろうね。ただ、原町とかには結構生活してる人いたからね、避難しないで。その人大丈夫だし、あれかなと思っていたのね。みんな防護服着て入ったり、俺はマスクぐらいで入って来たんだけど。痛くもかゆくもねんだわ（放射能は目にも見えず、においもせず、体で感じることができない）。だから、そういうの、あんま考えなかったな、やっぱな。

—小高に来て、福島市に戻る時には、スクリーニング検査とかはされていましたか？

相馬：しなかったな。そういう人、あの当時は、いなかったような気したな。

―じゃあ原発事故の後も、小高から南、全然人がいなくなる時に相馬さんたちは来ていたんですね。
相馬：来てた。

―無人の町みたいな様子でしたよね。
相馬：無人の町、ひでえな。いや、ほんとに。復旧作業ってまずなかったからね。マンホールは上がってたし、そのままだよね、ずっと。町中に豚いるしね。ばらばらやってたね。

―豚ですか。やっぱり誰かが放していたんですかね。
相馬：そうだと思うよ。（動物）愛護団体の人が結構いたな。愛護団体の人、俺らもやられたけど、エサタンク、全部ばあって開けられた。あと、水、蛇口折られて、水出しっぱなしとか。結構そういうのあったね。でも結局、その配合飼料なんかばかばか食うと、水飲みたくなるんだよね。で、水場に行くんだわ。水場で死んでるやつとかいた。ちゃんと飼ってやらないと、やっぱり。放しっぱなしっていうのは、そんな事故あるんだよね。結構みんな（豚や牛などの動物に）入られたんじゃない？　俺んちも豚に納屋に入られたし。やっぱ食い物探しなんだよね。

★避難生活

―そうですね。会津におられた時もずっと通っていたのですか？
相馬：そうっすね。6 月の何日かぐらいまで通ったような気するな。原町の友達で、やっぱ牛やめるなんて人がいて、その牛処分すんのに、と場に運んだりするのを手伝ったりっていうのもやったし。会津から通ってたから結構大変だったけど。そういうことやったり、あと、7 月くれえから俺、酪王牛乳の牛乳配達やってたんだよね。4 トン車のトラックで牛乳積んで、ヨークベニマルの中継基地みたいなとこに運んだり。そんなこと、1 年ちょっとやったかな。

―それは会津ですか？
相馬：会津じゃない、郡山。会津から郡山に通った。

―会津に住んでいらして郡山まで。会津のどちらからですか？
相馬：喜多方。喜多方から、何のために働いたのか分かんねえぐれえ油代（ガソリン代）かかったね。それを 1 年ちょっとやってた。
　それから相馬に戻って来て、その頃、相馬でアパートがまずなかったんだよね。その当時、家族 5 人で住んでたのが、あれは 2LDK か何かだったような気したな。すげえ小さなとこだった。めっちゃ高くて。たぶん（震災前なら）2 万円ぐらいで借りれたとこ、6 万円ぐらい取られて。ほんで、そこに半年、1 年ぐらいいたか。また引っ越し、引っ越しで、俺、相馬で計 1、2、3、4 回引っ越ししてんのか。だんだんアパートもその頃になって空いてきたんだよね。広い家、広い家って、転々しながら、去年、おととしか、家建てて、相馬で今生活してる状況だな。

その当時、相馬に移って、地震の災害復旧したな、あん時は。災害復旧を 1 年やって、それから採石場に上がって、半年ぐらいやったかな。その間に小高が解除になったんで、こっちの草刈りやったり何だりして。働きながらだから、そんなにできなかったですけど。

３．飼料作物と羊の飼育

★飼料作物の生産と羊の飼育のきっかけ

―なるほど。

相馬：平成 26（2014）年かな、資源作物でバイオマスプラントを造るっていう話があって、資源作物を実証で作ってくんねえかって（言われて）、こっち（小高）戻って来て、とうもろこし作ったんだね。そこでいろいろ試算して、ほんで、相手方の企業さんがちょっと日本で作んのは無理だと、コスト的に合わないっちゅうことで、それは頓挫したのかな。その時作ったとうもろこしが 80 ベクレルぐらいあったんじゃなかったかな。資源作物であれば使えたんだよね。80 ベクレルあって駄目で、次の年ももっと資源作物という事業の中で、ちょっとエサ作りもやってみるかと。そういうことで、平成 27（2015）年もやったんだな。そこでずっと牧草が 40 ベクレルぐらい行ってたかな。とうもろこしが 15 から 20（ベクレル）ぐらいまでだった気したな。それで、もしかしたらいけんじゃねえかと。

※以下は、後日相馬さんからメールで伺った、牧草作りに関する追加内容です。

何故、震災後牧草作りから始めたか、ですが、震災時、物流が全く動かず、エサが入る見込みが全くつかない状況人間の食べ物さえも入ってこない状況でした。震災を経験した方であれば、思い出すはずです。ガソリンもなければ、下手すりゃ水もないこんな状況において思ったことは、有事の際の日本の弱さでした。お金がある日本では、世界中の食糧、資源を輸入しています。それが止まった時の事を知っているのは、震災を経験した我々だと感じてます。21 世紀には現在 80 億人の人口が倍になるといわれています。日本の人口は半分です。震災後商売をやっていく中で思ったことは、世界の人口が増える中においては自国の生産物（牧草、飼料）は、貴重なものだと思ったからです。ちなみに、畜産における食料自給率は 9 パーセントです。肉、卵、牛乳、店頭から普段には消えることのないものですけど餌は、ほとんど輸入飼料に頼っている状況です。実は、結構まじめに考えて取り組んでいます。そんなわけで飼料作りに特化致しました。

―なるほど。牧草を生産し始めた 2015 年というと、避難指示解除の前ですよね。

相馬：そうっすね。解除の前から牧草作ってたな。そしてもう次の年、平成 28（2016）年も（飼料作物を）作ったんだね。そん時、7 ヘクタールぐらい作ったのか。基準値以下っていったらあれだけど、（放射能の数値が）高いのが 12～13 ベクレル。低いのはもう 2 ベクレル、3 ベクレルまでもう下がって、こりゃいけるなと。

それで（平成 28 年に）飼料作物を作り始めて。最初作り始めた頃は、別に売れなかったら牛飼えばい

いじゃねえかぐらいの話で作ってたんだけど。農地は結構あったしね。（実際は自家消費ではなく）販売まで持ってったんだけど、酪農のエサの場合、結構（放射能の）数字で買う買わねえが決まるんだよね。何々産じゃなくてね。南相馬市産だから売れねえとか、そういうわけじゃなくて、その（放射能の）数字としてのデータがちゃんと揃ってれば、やっぱりエサとして買ってくれるんだよ、みんなね。そんで、売り始めたかな。今では結構やっぱり売れてるんだ。足りねえ状態が続いてるんだけど。で、牛飼いやんなくてもいいかなって。

—それだけ売れるから、ということですか？

相馬：うん。これ買ってくれる人いなくなったら飼えばいいかなぐらい。

その頃だな、羊を飼おうと決めたのは。やっぱりエサ作っていくと、はねものが出てくるんだよね。カラスにやられたり、ネズミにやられたりっていうのが出てきて。それをどうにか利用できねえかな、利用できなきゃただのゴミで捨てるだけなんで、何かねえかなっちゅうことで。

最初は牛っていう話もあったんだけど、牛、大変だからやめようかって。ちょっとちっせいほうがいいなと。じゃ、羊でも見つけてくるかと。羊見つけてきて、当時 3 頭かな、メス 2 頭にオス 1 頭。そっから（2017 年から）羊始まって、3 年目の年（2019 年）、結構（飼料作物が）ネズミにやられたんだよね。これ（羊を）増やさないと、捨てんの（飼料作物の廃棄が）多くなんなと思って。

—それで羊を増やしたんですね。

相馬：北海道から、あん時で 12～13 頭導入したかな。牧草もそれなりに順調になってきて、去年、おととしぐらいから 50 町ぐらいやって。2 番草は最初っからエサとして売る気なかったんで、羊にやるようになった。羊、何頭いてもいいなと思って、食わせるようになって。去年、おととしかな、インスタグラムとかやってみるかなってやり始めて。最初は知名度もなかったけど、色々と評価もらって、それから東京のジンギスカン屋さんがインスタグラムで目つけてくれて、やりとりするようになって。去年の今頃くらいからじゃない、定期的に販売しだしたのね。

3 年前ぐらいって結構、羊ブームがやって来るみたいな、あったんだよね。こりゃいけるなと思って。今は結構勢い強いよね、ジンギスカン屋さん。羊の業界って、枝肉（頭部，尾，四肢端などを切取り，皮や内臓を取除いた後のと肉体）市場がないんだよね。だから、個人で取引するしかないのよ、もう。肉屋さんに国産の（羊）肉ありませんかって言っても、ないんだよね、市場がないから。

—なるほど。牛や豚とは違うんですね。

相馬：値段の付け方も、相手側のジンギスカン屋さんとうちらとの相対の商売なんで。中間に入ってないから、それなりの金額にはなるんだけど。

—そうですね。途中のマージンがないわけですもんね。

相馬：うん。ただ、相手側に駄目だって言われれば、もうそれで終わりだけどね。だから、それなりの羊を作ってやんなくちゃなんねえっていうのはあるってことです。

そんなことでやってて、いま年間でどのぐらいだ。そんなに頭数そろってないけど、10 頭ぐらいは出してるかな。そんで来年は、15～16 頭出せんのかな。

—商売になってきたんですね。
相馬：そうそう。羊で生計立てれるような人は日本にはいねえんじゃねえかな。何人かだと思うよ。1 人か 2 人、2 軒 3 軒ぐらいの話だと思う。俺は（飼料作物を栽培していて）エサ、はねもんがあるからできてるけど。
　あと、コマーシャル的な部分もあんだよね。北海道の酪農家さんでチーズとかバター作ってる人、だいたい 9 割がた儲かってないよね。何でやってるのっていったら、やっぱりコマーシャルだよ、牧場の。牧場のコマーシャルを発信して、人を集めて、実習生を受け入れる。そのためにやってるんだっていうのは聞いたことあるんですね。

—なるほど。確かにそういう取り組みはありますね。
相馬：うん。だから、羊をメインにする商売ではないっていうのは、うちではあるな。うちのメインはやっぱり牧草ととうもろこしで、その余力の部分で羊飼ってるぐらいの話なのね。

—相馬で何度も引っ越しなさって、その後 2016 年 7 月に小高が避難指示解除になるじゃないですか。そのタイミングで、小高に住むというのはあまり考えなかったですか。
相馬：子供が小学校上がっちゃうから、なかなか転校してまではね。
　真ん中の子は、1 年生の時は鹿島にある、こっち（小高区の小学校）のサテライト校に（相馬から）通ったんだよね。でも次の年、（小学校が）こっち（小高区）に戻って来るっていうことになって、相馬から通える距離じゃねえんで。相馬に移ろう（相馬市の小学校に転校しよう）ってことになった。

—やっぱり子どもの学校のタイミングとかもありますよね。

★商売としての羊の飼育

—そうすると、羊を飼いだしたのが 2017 年頃からですか。
相馬：そうだね、17 年かな。前川先生来る前だと思ったな。

—2018 年は、おだか秋まつりの時に学生と一緒に来させてもらいました（秋まつりで相馬さんが羊のふれあい体験ブースをなさり、当時の福島大学「むらの大学」学生がお手伝いした）。
相馬：その前だわ。

—羊を飼おうと決めた時の周りの反応はどうでしたか？
相馬：行政の人が見に来たりして、県とかね、酪農組合にも話したんだけど。その時、羊でぜってぇ儲かんねえよって、なんで羊なんて飼ってんの、そういうのがあったね。賛成してくれないっていうか、なんで羊なのっていうのあったね。で、なにくそっていう思いもちょっとあったんだよ。ばかやろう、今に見てろよっていうのがあったね。今となってはだけど、本業で訪ねてくる人（牧草ととうもろこしの視察に来る人）なんて誰一人いないよ。羊見せてくださいって、ポニー見せてくださいっていう人のほうが全然

広がりが違うっていう。来てくれた方にやっぱり藁が欲しい、牧草が欲しいっていうのが、結構広がるっていうのがあるね。だから、やっぱ人を集めるのが商売に大切なんじゃないかなって思いますね。

—すごいですね。それが今、商売になってるわけですね。

相馬：商売になるんで、大丈夫です。今、結構あれだよ、日本全国から来るよ。この前来たのは名古屋、ジンギスカン屋をやりてえからって買付に来るよね、やっぱり。枝肉市場がないから、みんな買う人が足運ぶね。希少価値もあるし。相場は枝肉でだいたい（1 キログラムあたり）4,000 円から 5,000 円ぐらいの間じゃない。そのぐらいだと思う。

　だいたい和牛の A5 の一番いい肉で（1 キログラムあたり）2,500 円だから、枝で。でも、世の中に行く（小売価格になる）とグラムだよね。グラム（100 グラムあたり）2,500 円ぐらいするわな。10 倍ぐらいになるんだ。途中でいろんな人が携わっていくからね。

—なるほど。ところで、羊肉の販売時に風評被害による売り上げなどの影響は特にはなかったですか？

相馬：風評被害はまずないね。もう希少価値高すぎて。だいたい国内シェア、羊 1%未満なんだよね。

—少ないですね。

相馬：ある時、北海道から「羊肉あるか」って来たよ。

—北海道から！

相馬：それ、逆輸入じゃないかって。北海道に羊いないのかいって言ったんだけど。面白いのが、北海道の人って道内にあんま卸してないのね。みんな東京だよ。

—そっちのほうが高く売れるんですかね。

相馬：すすきの辺りにあるジンギスカン屋、みんなオーストラリア産だよね。みんな東京に出してるよ。でも、内地から求めんなよって（笑い）。

—北海道の人が、相馬さんところに来られたんですね。

相馬：1 回来たことあったね。値段の折り合い悪くて。北海道はやっぱコスト的にかかんないから。放牧だ何だって。土地はあるし、それなりに安いんだろうな。

★今後への展望

—今後、羊や、もしくはその他の動物、飼料作物とか、いろんな業種に対しての今後の展望について聞かせていただけますか？

相馬：展望か。羊はそれなりのものを作れば、おそらく売れそうな気がする。ニセコにスキー場あると思うんだけど、あそこにオーストラリア人、結構来るんだよね。あそこに出してるラム肉は北海道の人のラム肉なんだけども、オーストラリアより美味いと、そんな評価をもらったみたいで。日本の肉は結構、肥育の技術だったり、やっぱ上手なんだと思いますけどね。味に対する、こうやったら買ってくれるみてえ

なのも勉強してるだろうし、羊は大丈夫だと思う、いけると思う。

あと、飼料作物はちょっと難しくて、やっぱり輸入物が（値段が）下がってくれば、やっぱ単価的にうちらのも下げざるを得ないっちゅうか。そういうのもあるんだろうけど、この商売やってて、いろんな経済誌とか、YouTube とかもいろいろ見て思ったんだけど、今後穀物（の価格）が下がるっちゅうことは、日本ではないような気がすんだけどね。

世界の人口、結構上り調子に上がってるけど、日本の人口って下がってるんだよね。そん中においては、やっぱり中国とかの輸入量が増してるから、日本に入って来る穀物（の価格）が下がるっていうことはないような気がするね。世界のとうもろこしのキャパとか小麦のキャパって決まってるから、それ以上生産量伸ばすっていうのはあんまりないんだよね。そこん中で人口が増えてくっちゅうことは、そっちに向いていくことができる。そうなるとやっぱり今後の飼料価格っていうのはずっと下がるっていうことはないような気がするな。飼料作物はそれなりにいけそうな気もするんだけどね。そんなかな。

—輸入物の牧草の価格が上がると、国産の人気が出るとかはあったりするんですか？

相馬：国産の人気っちゅうか、輸入物に対してうちらのものが値段で戦える状態になってきた。これから農業をやっていく上では、おそらく両極端になるような気すんだよね。ほんと大規模にやってる人、ブランドでやってる人、その両極端になるような気がする。中間層っていなくなるような気がする。俺らの友達も十何頭飼ってて、チーズとか作ってる友達がいるんだけど、世の中に 1 リッター2,000 円の牛乳があってもいいんじゃねえか。そういう商売ってありじゃねえのかって提案したことあったっけね。世の中に

はぼったくり価格っちゅうのがあんだから、そういうのもあっていいと思うんだよ。商売って結構そんなの面白えような気すんだよね。あれ何だっけ、シャインマスカットの干しぶどうだっけか、1 房 9,800 円ってあるよね。

—ありますね。

相馬：あれが売れるらしいんだよね。そういう商売も意外とありかなと思うね。いろんな人が来るけど、ブランディングの大切さみてえなのを言う人もいるよね。1 回ブランドに乗ってしまえば、後は生産の維持っちゅうか、その品質を保てるっちゅうのが一番大切だと、そんな気がするな。

—小高の羊、何かブランド名考えないといけないですね。

相馬：ブランド名ね、要らない、大丈夫（笑い）。結構、焼肉屋さんとか、そっちの人のほうが盛り上げてくれるよね。東京のジンギスカンの店をやってる人が来て、話を聞いたら、東京で羊フェスタってのがあるらしくて、2 日間で 5 万人ぐらい来るらしいよ。その人、うち（相馬牧場）の羊を看板に使ってもいいですかって聞いてきました。

—すごいですね。

相馬：あれ不思議な世界だ。誰かがうまいって言えば、次の人もうまいって言うから。誰かがまずいって言うと、ずっとまずいんですよ。

—羊の飼育の上で大切なことや大変なことってありますか？

相馬：羊で一番大変なのは寄生虫かな。寄生虫に弱いんだよね。牛はそれなりに強いんだけど、牛から蚊で媒介すんだよね。体の中に入って、脊髄に入って、立てなくなったり、そういうのはあるね。あと、羊の獣医さんってはいないんで、そこら辺が。獣医さんからいろいろ聞きながらとか、自分で注射も打つし。だいぶ死んだことは死んだんだ、（病気や治療法が）分かんなくて。今はもう全然、そんなには死ぬ羊ってのはいないんだけどね。最初はやっぱ大変だよね。

—専門の獣医さんがいなかったら、相馬さんご自身で色々調べたんですか？

相馬：そうそう。インターネットで調べたり、仲間に聞いたり。やっぱ羊飼ってる人、日本全国に結構いるんだね。年齢が行って、今まで牛飼ってたんだけど、体力的にもたねえからちいせえやつ飼いてえと。ヤギ飼ってる人もね。ヤギ飼ってる人、知ってる人で 250（頭）ぐらいだったかな。夏の間は除草レンタルに出して。で、引き上げてきて、肥育かけて、ずっと。鹿児島かどっかで 1 回肥育かけるのかな。で、沖縄に行くんだ、最近。沖縄は（ヤギを）食べる文化だからね。

—羊の他に小さい家畜で育ててみようと思っている家畜はいますか？

相馬：今んとこ、羊と馬だけで精一杯っちゃ精一杯だけど。何かもうかる商売ねえかなと思ってるんだけどね。

—馬はいつから飼っているんですか？

相馬：馬は去年ぐらいかな。

―その馬って元々競走馬として走ってた馬ですか。
相馬：そうそう。まだ走ったやつを引っ掛けて。

―引退馬ですか？
相馬：うん。そうだね。かわいそうだけど、しゃあないよね。

―相馬野馬追とかもあると思うんですが、そういったところには使ったりはしないんですか？
相馬：野馬追に使ってるのは 2 頭だけはいるんだけど、相馬野馬追に使う馬はほんと、例えば馬が千頭いたとしたら、そん中の 10 頭ぐらいじゃないかな。暴れ馬なんか使えねえから。選ばれし、ほんとのおとなしいやつしか出場してないと思う。乗馬クラブの馬とかね。人に慣れてないと。

―なるほど。ちょっとお聞きしたいんですが、震災前後で考え方に変化がありましたか？
相馬：震災後の考え方の変化。震災前は無我夢中かな。震災後は新たな一歩だから、考えることが多いのね。どうしたらどういう商売で成り立っていくかとか。みんなそうだと思うんだけど、うちらは個人事業主っちゅうか、どうやったらどういうものがたくさん売れるか、高く売れるか、そういうのは考えるようになったね。昔、震災前っていうのは、搾れば取りあえず売れるわっていう。あとはどこに行ってんのかが分かんないっていうな、そういう世界だったけど、震災後はお客さんとの相対の話とか、消費者が見えるっちゅうのはあるよね。だから、付き合う人の幅が広がったちゅうか、そういうのはありますね。

―震災前、牛乳は持っていってもらったら終わり、という感じでしたか。
相馬：そうなの。今度、羊も馬も、あと、エサもだけど、みんなお客さんとの相対で。一番最初はお客さん見つけんのに、サンプル持ってって「どうですか」って、そっからの話だからね。

―なるほど。
相馬：かなり持ってったね。そこでやっぱりいいもん作ってやれば、口コミで広がっていくね。2～3 軒かな、持ってったのが。そのうちにずっと納めるようになって、あそこのエサはいいよと口コミが広がって、今に至ってるっちゅうか。

―エサの良し悪しって何で決まるんですか？
相馬：牧草なんかも雨に当てたら栄養半分だよね。あとは刈り取りの適期。遅れれば遅れるほど、刈り遅れになって、嗜好（しこう）性も悪くなって牛食わないんだよね。出穂期になるべく刈るようにして。

―タイミングが難しいですね。
相馬：タイミングが。うちらは 2 日でだいたい、刈り取りだけで 55 町(1 町=0.99ha)ぐらいは刈るんだ。そのぐらいの勢いでやんないと、いいもん摂れない。

—すごいですね。何人ぐらいでなさるんですか？
相馬：刈り取りは 2 人で。

—すごい。もう朝から晩までですよね。
相馬：でも、商売ってそんなもんだよね。そん時しか働かねえんだ。やる時やる。

４．復興と課題、そしてこれからに向けて

★復興と小高の課題

—相馬さんにとって復興って何ですか？
相馬：復興な。よくいろいろあれよね、元に戻んのが復興だとか、いろいろあるんだろうけど。俺の思ってる復興はあれじゃねえかな、昔っからやってるのは俺ら、避難して戻って来ている俺らだけど、新たな人が入って来れば復興なんじゃねえのかね。新たな人が入って来て、いろんなことを始めるとか。農業やりてえって入って来たり。そういうのが復興なんじゃねえかなって思うね。前の人がやっても、前の延長線なんだろうね。それは思うね。でも、いいんだよ。周りの人が入って来て、いろんなことやってんの。いろんな情報も入るし。前の人やらねえほうが、いろんなことできるしね。

—前に牛やってた人はこの辺りだと何軒ぐらいいましたか？
相馬：十何軒あった。小高は結構多かったよね。

—戻って来てる方でまだ牛やってる方はいますか？
相馬：やってない。肥育、繁殖はいるかな、1 軒だけ。和牛の繁殖。1 軒だけいるけど、あとはいないよな。

—あとはもう皆さんやめちゃった。
相馬：うん、やめちゃったね。またやろうと思えば 10 年かかるからね。60 歳の人、楽できるようになったって、10 年後じゃね。

—そうですね。また牛舎を建てて、牛を飼って、軌道に乗って、ペイするのが 10 年後。
相馬：それだとやっぱり(身を)引くよね。

—そう考えると、牛ってすごく初期投資がかかりますね。
相馬：初期投資かかるね。

—羊はそこまででもないですか？
相馬：羊は初期投資かかんねえな。でも、羊もだいぶ高くなったね。俺、最初に買ったの（一頭あたり）

6 万～7 万（円）ぐらいの世界だったけど、今、15 万ぐらいしねえと買えねえんじゃねえかな。

—2 倍以上に…。
相馬：やっぱな。ヘルシーブームで。

—売る時の値段もちょっと上がってますか。
相馬：ジンギスカン屋さん？　上げてるんじゃないですか、もちろん。もうけ必要だし。ジンギスカン屋さんも上手なんだ、売り方。日本産のだけ売るわけじゃないの。外国のも使って、食べ比べすんだよね。そうすると、何産のやつってやっぱある程度希少価値上がってくんだよね。

—そうですよね。日本産のほうがおいしいと。
相馬：上手なやり方やね。勉強になるよね。やっぱり商売する時にはいろんな業種の人と携わったほうが、売り方にしたって上手になってくんじゃねえかなと思うよね。ホリエモンが言ってたけど、北海道に行くと、倉庫の中にレクサスが入ってるってね。北海道のもうかってる人、ほんとにもうかってるから。
（岩手出身の学生に）岩手県って「松ぼっくり」ってアイスクリーム作ってるとこある？

—あります。
相馬：俺の 1 つ上の先輩なんだよ。

—そうなんですか！
相馬：うん。岩手（短期大学）の時の。あの人がアイスクリームやったきっかけって、お母さんがアイスクリーム作るの好きだったんだよね。周りに配ったら、これ、おいしいからやりなって言われて、そっから始まったんだって。今、どんぐれえだろう。売上でアイスクリーム屋だけで 7,000 万ぐらいいってんでねえか。

—7,000 万！
相馬：何かのきっかけなんだよね、やっぱ。

—場所は便利な所なんですか。
相馬：いや、便利じゃねえよね。雫石の山ん中だもんな。アイスクリーム屋の一番ネックは冬なんだよ。冬に売れないのよ。でも、あそこってスキー客が来て売れるんだわ。

—なるほど。お客さんが来て、運動しますもんね。
相馬：那須で 1 回、アイスクリーム屋さんとこ行って、いろいろ話聞いたことあって、やっぱ冬なんだよね。冬売れないと、それだけ売上下がっちゃうよね。だから、冬にどう売るかっちゅうこと。それでやっぱ軌道に乗ったんだよね。

—なるほど、ウインタースポーツの場所だったり、観光客が買ってくれるというのは大きいですよね。

相馬：そうなんだよね。すげえでっけえ暖炉があって、じゃんじゃん火をたくんだよ。そうすると、アイスクリーム食いたくなるんだよ。こりゃ上手だなと思ってですね（笑い）。

★地域の未来に向けた取り組み

―相馬さんが、ふくしま食育実践サポーターの活動も行っておられると伺ったのですが、どんな活動か詳しく教えてください。

相馬：食育。食育の授業は幼稚園に羊とポニーと連れてって、スタッフの人が 8 人ぐらいいるんだけど、その人たちで食育授業やってもらう。例えば、「牛乳はあなたたちのために作ってんじゃなくて、子牛に飲ました余りの部分をみんな頂いてるんだよ」なんて、そんな話はしてたな。だから、頂いたもんだから大切に最後まで飲んでねって。あとは、食育授業でバター作ったね。かき回して、がしゃがしゃ。

―それは何か頼まれたんですか？

相馬：いや、県の事業で。うちらから売り込みに行くんじゃなくて、小学校、幼稚園から要請が来る。それに対して行くんだけど、コロナの時はなかったよね。年に 1 件か 2 件ぐらいあったかな。でも、普段は 1 年間は 5 件ぐらいはやったのかな。いろんな小学校行ったり、幼稚園だったり。1 回、福島大学にも行ったような気がする。

―2018 年にいらっしゃいました。

相馬：クリスマス近かった気したな。

―そうです。学生から大人気で、テレビ局の取材も来ましたね。

相馬：うん。食堂の近くでやったような気がしたな。

―県との協力というお話もありましたが、現在、行政との連携や協力はありますか。

相馬：県との協力は、今は相双農林事務所と一緒になって、子実とうもろこし(とうもろこしを完熟させ、子実だけを収穫したもの)の実証栽培。試験（栽培）は県のほうでやったかな。県の畜産課が主になってやってるね。あと小高では、来年、羊を小高小学校に連れて来て、羊毛で授業をやってもらいたいなんていう依頼は来たね。小学校 2 年生とか 1 年生とかって小さい枠でいつも頼まれたんだけど、今回は小高小学校全体の授業としてやりたいって市役所から（依頼が）来た。来年の授業に対して、こういうことをやりたいからっていうのは来るよね。市役所のほうで来年度事業の予算を確保したいから、今の時点でもう計画を練っておく。来年こういうことをやりたんですって、うちらに来て。来年やるための前段取りっちゅうか、そういうことは今の時期だよね。4 月、3 月ぐらいの時点ではもう遅いんだよね。

―やっぱり色々と、相馬さんにまず話が来るんですね。

相馬：誰もやってねえからじゃねえか。子実とうもろこし、やり始めてから 5 年ぐらい経つかな、なんだかんだで。やっぱり今、エサ高いっちゅうのはあるんだろうけど、でも、ここで作ったものは食べさせられるっていうのが一番のあれなような気がすっけどね。発信というか。あとは国産飼料を食べさせて、や

っぱり 1 リッター2,000 円じゃねえけど、そういうのもやっぱり商売としては成り立っていかないとね。

—そうですね。

相馬：おっきい企業だけが成り立っていくっちゅうのは、おそらくないと思うから。アメリカ、カナダで、何千頭、何万頭の牛屋さんがそこの国を賄ってるかっていうと、そうじゃないんだな。100 頭、200 頭、そのぐらいの小さい規模の人がその国の農業担ってるんだよね。おっきいとこっていうのは、それなりにリスクあるんだわ。病気だったり、お金の面だったり、崩れ始めれば早えんだよね、やっぱり。だから、この辺の農家さんも俺も思うんだけど、やっぱある一定の作物に特化するっていうのは一番おっかないのよ。玉ねぎだったり、ねぎだったり、ブロッコリーだったり。1 つのものに特化すると、それ全滅した時終わりだから。

—そうですね。相馬さんのお話を伺っていると、出口、売り先のことを考えた上で作っておられるなと感じます。

相馬：それはあるよね。やっぱり在庫抱えるほど苦しいものはないよね。だから、足りねえくれえがちょうどいいんだなと思うんだけどね。

—売り先がだいたい決まって、これくらい売れるなっていう見通しを付けるんですね。

相馬：でも、このぐらい作ったら売れるっていう見通しが一番大変だね。

今こういう状況だから、突然乳牛やめたとか、そういうの結構あるから、そこら辺もね。

藁なんかも、2 軒ぐらい酪農家やめて、ある程度在庫残ってる。別なとこに売るとこはあるから、そんなには心配してないんだけど。

—なるほど。今度、浪江に牧場できるじゃないですか。そこも関係してきますよね。

相馬：そう、県酪連とは取り引きあって。あそこはある程度は販売するようにはなってる。

—何頭ぐらいの規模になるんですかね。

相馬：経産牛、乳搾るやつで 1,000 頭ぐらいいるんじゃないか。だから、でかいのがいいんだか、ちょっとちいせえのがいいんだか分かんねえけど、帯畜とか酪農学園とかで、酪農をやりたくて勉強してる人たち、家が酪農じゃなくて、そういう人たち、結構牛舎も持たないで、放牧で酪農してやってるね。結局、いくら 1 億円売上あげても、経費で 9,900 万かかっちゃ駄目なんだ。最後に残るお金だから。そこら辺なんだな。

—そうですね。そういう意味では、あまりお金をかけずに小規模でやったほうが、実は利益が残ってるかもしれないですね。

相馬：うん、そこら辺はちょっと難しいとこだな。日本の中の流れとか見ないとやっぱり。

★飼料作物や羊の飼育のこれからへの取り組み

—そうですね。
**　飼料について牛の飼料としてエコフィードを利用する例がありますが、羊にも与えますか？**
相馬：やってる人、たくさんいる。ワイン羊とかわかめ羊とか。何が変わるんだって、変わんないんだけどね。

—エコフィードを使うと、質が良くなる、悪くなるみたいな変化はでますか？
相馬：これ難しいとこで、ワイン食わしたから、肉柔らかくなるかっていうと、そうではないんだよね。でも、ネームバリューってすげえ大切で。あそこのワイン羊うまいよねっていうのが広がると、やっぱばっと（人気が）いくんだよね。俺もいろいろ国産の飼料だけ食わして販売してるみたいなことは言うけど、実際のところどうかなと思ってるのは、エサの割合とかそういうのでやっぱ変わってくるんじゃないかなと思うけどね。

—そうですね。確かに普通の豚肉っていうより、エゴマ豚って言われたほうが何か価値があると思いますよね。
相馬：そうなんだよな。そのエゴマは中国から輸入してるって、おかしいけど。そういうもんなんだよね。

—そうですよね。
相馬：でも、最近、東京のフランス料理の人が問い合わせてきた内容は、抗生物質を使ってないとか、あとは穀物を食わしてないとか、そういうのはあるよね。専門の店とかもあるし。
　穀物食わしてなくて、草だけで食わしてんの、グラスフェッドビーフかな、よく言うんだよね。あれ結構人気になったんだよ。オーストラリアとかでも、草しか食わしてねえ。抗生物質も使ってねえし、実際のところ、輸入されるとうもろこしっていうのはもう 10 割がた遺伝子組み換えの作物で作ってるから、そういうのじゃない作物を与えてるみてえなのはやっぱり特化すんじゃねえかなと思うね。

—なるほど。
相馬：うん。ある程度裕福になってくると、その上は何か健康志向になると。だから、日本も牛肉ばんばん食ってる時代から、だんだん赤身の時代になってきたっていうのは聞いたことあるけどね。発展途上っちゅか、ぐうと上り調子の時っていうのはやっぱり濃いもん食いてんだよね、やっぱり。そういうのはあるみてえなことは言ってたけど。

—なるほど、そうなんですね。では、最後に学生に向けて一言お願いします。
相馬：60，70 代の人が良く言うんだけど、あと 20 歳若かったらて言うんだけど、それはちょっとよく聞くね。やっぱり年配に行くと、もうちょっと前にやっておけばよかったなって思うんだよね。だから、若いうちは気づかねーだろうけど、もうちょっとやっておけばよかったと思うから、もう、本当にやりたいことを早く見つけて、その目標に向かってやれば、おもしれえんじゃないかな。例えば、俺なんかそうなんだけど、酪農やってた時は、付き合いが狭かったんだよね。酪農家さんのコミュニティちゅうか、そ

ういうのはあるけど。今こういう商売やってると、いろいろ人との付き合いが出てくるので、視野が広がるよね。学生のうちは色々なことやって、目標に向かってやるのが一番いいんじゃないかなって思うね。よく社長さんとかとしゃべるけど、みんなお金が好きなんだよね。お金儲けするにはどうすればいいかを考えている。まあ、そういう人たちは、前向きっていうか、前のモノを使うっていうのがあるよね。次から次へと色々考えるよね。

ーそれではインタビューはここで終了です。ありがとうございました。

【学生の感想】

相馬さんへのインタビューでは、震災・原発事故の事だけでなく、実際の商業のお話や今後に向けての展開など、大手報道機関では知ることのできない内容も知ることができました。また、インタビュー後に実際に羊の飼育環境や飼育法などについての説明をしてくださったことや、電話やメール、zoom などを通して、相馬さんの故郷への思いやメッセージを知ることができたことからも、これからに向けた強い思いを知ることができました。

行政政策学類１年　千葉晃久

実際に南相馬市小高区を訪れ、相馬さんに震災当時の牧場の状況や、震災が牧場に与えた影響の大きさについてのお話を聞いたことで、東日本大震災・福島原子力発電所の事故について新たな視点を得ることができました。また、震災前後の考え方について「震災前は無我夢中、震災後は新たな一歩」という言葉が印象に残っています。この言葉から震災が牧場に与えた影響だけでなく、相馬さんの考え方にも強く影響を及ぼしたことを学びました。

行政政策学類１年　八木古都音

相馬さんへのインタビューから、乳量が伸び始め、借金返済も終わる、これからという時の震災に遭ったことが印象に残っている。困難な状況になっても、新しい 1 歩を踏み出す相馬さんの姿から、何事にもまずは挑戦していこうと思った。また、輸入飼料に頼り、飼料自給率が低い日本の状況から飼料作りに取り組んでいることや、SNS などを利用した羊肉の発信などの相馬さんの取り組み、商売の工夫から食農学類の学生としてもとても勉強になりました。

食農学類１年　我妻由崇

実際に震災を体験した相馬さんへのインタビューで震災当時の周囲の状況や牧場のこと、心境についてなど事前学習だけでは知ることができなかったことを知ることができました。また、相馬さんにとっての復興は元から住んでいる人が戻ることだけでなく新しい人が来て新しいことを始めることが復興になるということを聞き、自分の中で復興という言葉の新たな視点を得ることができました。また、メールでは震災を経験して感じたことや飼料作りに特化することにした理由を知ることができ、参考になりました。

食農学類１年　齋藤雄斗